

2023年11月13日

パルシステム生産者・消費者協議会

次世代リーダー研修実行委員長 王隠堂 正悟哉

2023年度第2回次世代リーダー研修報告

- (1) 11/1・2、群馬県昭和村の千年の森 J-wings および野菜くらぶにて 20 産地 28 名、パルシステム関係者 15 名、事務局等 11 名の総勢 54 名参加により、第 2 回次世代リーダー研修が開催されました。
- (2) 1 日目は、岡田 祐樹実行委員（エコーたまつくり）の進行により、青木等実行委員（JA 新潟かがやき）の開会挨拶、オブザーバー参加として細谷消費者幹事および、小島 寛美氏、山田茉莉氏、小林氏（野菜くらぶ）の紹介がされました。
- (3) 続いて「野菜くらぶの人財育成と農業の未来とビジョン」をテーマに、野菜くらぶ/グリーンリーフの澤浦彰治代表より、「農業経営における価値創造の大切さ」「時間軸・空間軸・人口動態から考える農業」「野菜くらぶ/グリーンリーフの組織概要、人材育成と組織づくり」「事業承継と継承」「業績や評価など様々な見える化」等、これまでの経営を振り返りながらお話をいただきました。
- (4) 講演後、グループごとに講義を受けての深堀と質問・意見交換に向けて話し合わせ、質疑応答の時間では「農地集約を進めるうえでの所有者不明農地問題」については「不動産業者を通じて行政を絡めて農地集約を進めている。地域を交えながら農地集約に向けた賛同を得ている」、「独立支援プログラム卒業後の生産」については「独立直後は営業や経営よりも生産に集中するために、販売は野菜くらぶを通じて全量行うケースが多い」、「経営者としての不安とアドバイス」については「不安を抱くほうが経営は成功する。誰のためにも思うのかが重要。不安に思うことを 1 つ 1 つ裏付けにより消していく。誰もやっていないことをやるのは不安だが価値競争になり、誰かがやっていることは価格競争。不安は心理学的にも身を守ることにつながる」、「市場価格に左右されず価値を創造すること」については「相対評価にならないよう、価格以上の価値をどう作っていくか、年間で供給できることや歩留まりが良いなど、どこにでもあるものにならないことが重要」、「地域の生産者との関わり、付き合う中で気にかけていること」については「野菜くらぶは設立当初から地域でまとまることはせず、理念を賛同した人だけで行い、昭和村の 1300 人程の農家の中では 40 人ほどの仲間がいる。一方で生活圏としての協力体制については、清掃作業やボランティアなど地域の一人として積極的に行っている」とお話しいただきました。
- (5) 2 日目は、2 グループに分かれ、農事組合法人つばさふぁーむ生産圃場および出荷関連施設にて代表の武氏より独立支援プログラムから卒業後の就農、農地確保、野菜くらぶとのつながりについてお話を伺い、グリーンリーフのこんにやくおよびお料理セット生産工場、職員専用託児所、新工場および交流施設建設現場、野菜くらぶ集荷施設の視察では、生産管理や子供と一緒に働ける会社づくり等についてお話しいただきました。
- (6) 視察後、千年の森 J-wings 研修室にて、弓削 敦実行委員（野菜くらぶ）の司会進行により進められ、質疑の時間では「醸成会の目的と役割、気候変動による将来への対応」について、毛利専務より「醸成会は野菜くらぶによる部会活動とは別に生産者による任意団体で交流会や視察、青年部などの活動を行っている」、澤浦代表より「今夏は大きな天候影響を受けた。今後は天候への変化対応を行うようにしている。日射量が増える中でトマトの収穫量は過去最高となった。定植時の灌水に対応する人件費が増えたこともあり設備投資や圃場整備を進めることや、栽培体系の変更などが検討されている」とお話しいただきました。最後に、長谷川壮也実行委員（ジョイファーム小田原）より 2 日間のまとめとして「今回の研修を日々の課題の解決につなげていただきたい。野菜くらぶで

は農業の当たり前の感覚を改善してきた印象がある。皆の意見を聞いて決定している。変えられることは変えていただければ」と呼びかけられ閉会となりました。

次回、第3回次世代リーダー研修 12月6日・7日（水・木）パルシステム連合会東新宿本部

以上



澤浦代表による講演の様子



グループワークの様子



つばさふぁーむ圃場視察の様子



グリーンリーフ工場内視察の様子

